

【IIMのポリシー】

「販売とはサポートである」

～性能管理のセミプロ育成をめざして～

OUR VISION

自立した性能管理促進



貴社のビジネス戦略・中期計画に即した
ITシステム管理の実現を支援

- ▶ 貴社ビジネスと
ITシステムの関連性を把握
- ▶ 日々の業務や事業展開における
ITシステムの貢献度を可視化

セルフ
オペレーション

最適化
(最適化)

STEP
03

自社の戦略や
方針に基づく
自立した性能管理を実現

スタートアップ

STEP
02

稼働実績に基づいて
対象システムを最適化

STEP
01

IIMのノウハウを生かしながら
既存のシステム運用を置き換え



オープンシステムの性能管理ソリューション

変わる世界に合った性能管理を。



ES/1 NEO

CSシリーズ

システムの「安定稼働」と「コスト削減」を実現



株式会社 アイ・アイ・エム URL <http://www.iim.co.jp/> E-mail inquiry@iim.co.jp

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-6-1 セイコー京橋イーストビル
TEL : 03-6858-4710(代) FAX : 03-6858-4711

大阪支店 〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町4-2-15 ヨドコウ第2ビル
TEL : 06-6245-0001(代) FAX : 06-6245-0005

中部営業所 〒460-0008 名古屋市中区栄 2-2-17 名古屋情報センタービル
TEL : 052-220-2977 FAX : 052-220-2978

17.05.30

性能問題を可視化し、システムの 「安定稼働」と「コスト削減」を約束します。

複雑化するオープンシステムを「見える化」し、
システムの品質改善および
過剰なコストを削減するための唯一の性能管理ソフトウェア。
それがES/1 NEO CSシリーズです。

こんなトラブルでお困りではありませんか？

ES/1 NEO CSシリーズが課題を解決します！！



障害が発生しても、その原因がわからない…

サーバ、ネットワーク、
ミドルウェア、データベース、ストレージ。
どの部分に問題点があるのかわからない。
分析ノウハウもない。



的確な分析と、ノウハウの提供

多種多様なデータからの的確な分析を自動で行い、問題点およびその原因を
導き出します。
また、サポートを通じて分析手法からチューニング手法まで「性能管理の
プロ」のノウハウを提供します。



レスポンスが悪化する前に対処したい…

お客様からの苦情やトラブルが
発生する前に対応したい。
事後対応の繰り返しを続ける運用管理から
脱却したい。



性能悪化を未然防止

目に見える問題点だけではなく、潜在化した問題点も指摘。
事前に対処することで性能問題の発生を未然に防ぎます。
また、中長期的な稼働状況を確認することで、システムの傾向を把握し、
より健全なシステムを維持できます。



システムが過剰投資になっている気がする…

リソースの無駄(過剰投資)を無くすために
システムを仮想化したのが、
最適化されているのかわからない。



IT投資のコスト削減を実現

システムの利用状況を可視化することにより、無駄の有無が簡単に確認で
きます。また、膨大な性能データを効率的に解析できるため、精度の高い
キャパシティ計画が立案できます。これにより、数値データに裏付けられた
計画的な投資が行えます。



定例作業に工数がかかってしまう…

稼働グラフや月報作成などに、
SEの多くの工数が取られてしまう。
また、ノウハウが無いため、
本当に意味がある成果物ができているか不安…



性能管理の定例作業工数を大幅削減

データ取得→加工→分析・評価→報告書作成などの定例作業を全自動で行う
ことにより、性能管理担当者を煩雑な業務から解放します。
また、性能管理のノウハウを生かした成果物が簡単に作成できるため、大幅
な工数削減が可能となります。

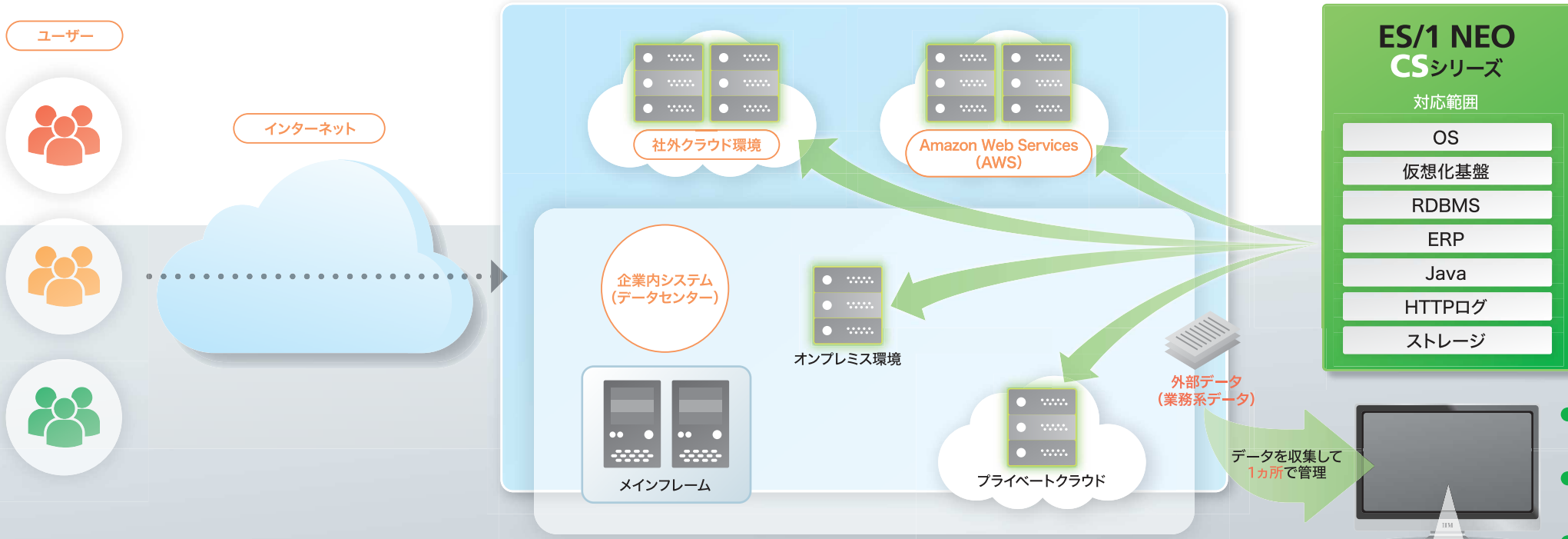
安定稼働を実現

コスト削減を実現

システムに潜む時間と投資の無駄を削減。 CSシリーズの性能管理は、ココが新しい!! ココが違います!!

一歩先行く性能管理を実現します。

- AI(自動分析機能)を利用して、問題を自動抽出
- システムの変化を検知して、問題を未然に防止
- 多様なシステム構成に随時対応、システム内に潜むブラックボックスを可視化
- パブリッククラウド環境にも対応



- チューニングヒント
- プロからのアドバイス
- 相関分析

- チューニングヒント
- CSSIによる変化の察知

- チューニングヒント
- vCPU適性化グラフ
- 相関グラフ(業務量とリソース)

チューニングヒント

VMware Datacenter 10 チューニングヒント 2016年10月13日(水)

資源	判定	重要度	チューニングヒント
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が高くなっています。(注)
プロセス使用率	×	高	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が高くなっています。(注)
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)

IIMのプロのノウハウを用いてシステムを自動分析し、問題点を日本語で表示します。

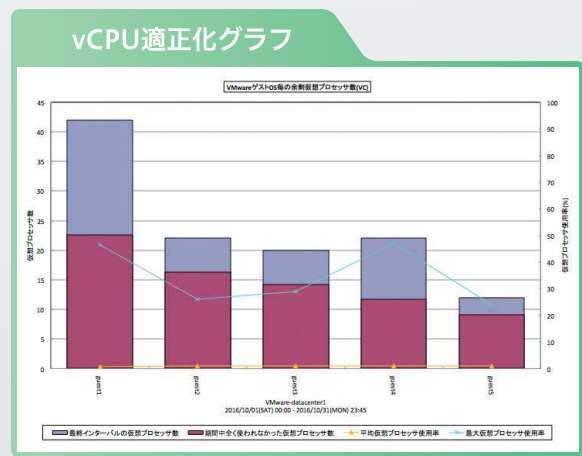
プロからのアドバイス

VMware Datacenter 10 チューニングヒント詳細表示

重要度 1: 仮想マシンの仮想プロセスの使用率が高くなっています。

仮想マシン	仮想プロセスの使用率(%)
guest140	100.00
guest144	100.00
guest19	98.42

プロからのアドバイス
[詳細]
チューニングヒントで仮想マシンの仮想プロセスの使用率が高くなっている場合、どのようにすればよいでしょうか。
[原因]
仮想マシンは構成上、1つ以上の仮想プロセスが割り当てられます。また、仮想マシンのプロセススケジューリングがリソースとして、Share値(制限)が手動で調整されています。仮想マシンは数当てられた仮想プロセスの種類を上げ、プロセスを使用することができます。また、制限の調整や、プロセスが競合状態でのShare値調整によって、仮想マシンのプロセス使用率が変動することがあります。仮想プロセスの使用率は、仮想マシンに割り当てられたプロセス能力のうちの程度が実際に使用されて、たかき、この値が高くなる。該当する時間等では仮想マシンの割り当て能力が枯渇し、ゲストOSに十分な稼働時間が割り当てられなかった恐れがあることを意味します。
[情報による原因の推察]
該当する時間等において、仮想マシンのプロセス使用率の割合が不足しています。スケジューリングパラメータを調整して、仮想マシンのプロセス使用率を向上させることも検討してください。他に原因のあるゲストOSがある場合、仮想マシンをマイグレーションすることも検討してください。
[設定方法]



仮想化システムの無駄(余剰vCPU)を発見し、リソースを最適化します。

相関分析

VMware Datacenter 10 相関分析 2016年10月13日(水)

資源	判定	重要度	チューニングヒント
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)
プロセス使用率	×	高	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)
プロセス使用率	○	低	ES/1 NEOの仮想マシンプロセス使用率が低くなっています。(注)

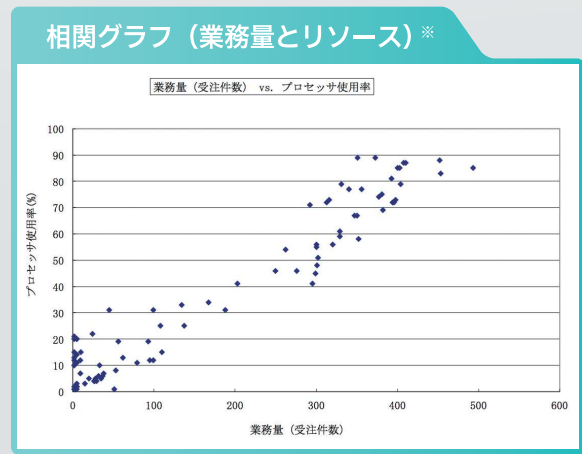
チューニングヒントで指摘された問題点の原因の絞り込みを実施します。

CSSIによる変化の察知

VMware Datacenter 10 CSSIによる変化の察知

資源	判定	重要度	チューニングヒント
プロセス	×	高	プロセス使用率の平均値が過去のピーク値を超えています。(注)
プロセス	×	高	プロセス使用率の最大値が過去のピーク値を超えています。(注)
プロセス	×	高	プロセス使用率の最大値が過去のピーク値を超えています。(注)
プロセス	×	高	プロセス使用率の最大値が過去のピーク値を超えています。(注)
プロセス	×	高	プロセス使用率の最大値が過去のピーク値を超えています。(注)

チューニングヒントで指摘された問題点に関する解説やチューニング方法を表示します。



業務量とリソースの関係性を可視化して、適切なキャパシティ計画を立案できます。

※CSSI: カスタマイズ評価プログラム

※一部カスタマイズが必要になります